

暑さも和らいで体育大会、文化発表会と大忙しの月がやってきました。
行進の練習に美術の製作にと忙しいですが、図書館でちょっと一休みしませんか。
27日からは読書週間も始まります。気になる本や話題の本をぜひ手に取って見てください。
今月は2つのトピックです。

ビブリオバトラー 推し本

今図書館では、『ビブリオバトラー押し本』の紹介、展示をしています。

全国の中学生・高校生・大学生それぞれのビブリオバトルで紹介された本を集めて展示しています。

2025年中学生の部で紹介された回数の多い本 TOP4 をここで紹介します。

『かがみの孤城』 辻村深月 ポプラ社

学校に居場所をなくして部屋に閉じこもる中学生の少女・ところが、光る鏡の向こうの不思議な城で同じ境遇の仲間たちと出会い、謎や困難に立ち向かう感動のファンタジーマステリー。

桃中の生徒さんの中にもファンが多いです。読んで良かったという声をよく聞きます。まだ読んでない方はぜひ読んでみてください。

NO
IMAGE

『アリアドネの声』 井上真偽 幻冬舎

過去の事故で兄を亡くした罪悪感から救助災害ドローンのベンチャー企業に勤める青年・ハルオは、業務で訪れた障害者支援都市「WANOKUNI」で巨大地震に遭遇する。ほとんどの人が避難する中、一人の女性が残されてしまう。それは「見えない・聞こえない・話せない」という三つの障害を抱えた町の象徴・中川博美だった…。



宮島未菜『成瀬は天下を取りにいく』

新潮社刊

滋賀県大津市を舞台に、我が道を突き進む中学生・成瀬あかりの日常と成長を描いた連作短編小説。ある日急に丸坊主にしてきたり、M-1 グランプリに挑戦したりと変わり者と言われる成瀬ですが、なぜか放っておけない、目が離せない。どんどん成瀬の魅力に引き込まれていきます。

NO
IMAGE

『二人一組になってください』

木爾チレン 双葉社

とある女子高の卒業式直前、27人の生徒が残る教室で、担任教師が「このクラスにはいじめがあった。いじめをした人間は死刑になるべきだ」と告げ、命をかけた特別授業（デスゲーム）が始まる。クラス内のカーストが崩壊し、裏切り、嫉妬、憧れ、真実が手を取り合う。青春と友情の最高傑作。

NO
IMAGE

この夏に読んだ本

今年の夏、以前から気になっていた「ろう者」をとりあげた本をまとめて読んでみました。
「ろう者」とは一般的に『音声を聞き取るのが難しく、主に手話を日常の言語として使用する人』のことです。

気になったきっかけは、

『「コーダ」のぼくが見る世界 聴こえない親のもとに生まれて』 五十嵐大 紀伊國屋書店
というタイトルの本を見かけたことです。

「コーダ」って？聴こえない親との生活ってどんなだろう？と知らないし
考えたこともない世界の本だなと思いました。

手話は言語で外国語という立ち位置、という言葉を読んだ時の衝撃が
今でも忘れられません。

外国語?!私は何か勘違いをしていたのかもしれない。手話は使うものではなく
話すものだという方が自然なのかもしれない。と何か腑に落ちたものがありました。

NO
IMAGE

『「コーダ」のぼくが見る世界 ～ 』の中に

『デフ・ヴォイス』 丸山正樹 文藝春秋

という作品が紹介されていて、桃中図書館に所蔵されていることを思い出し
読んでみました。

「デフ」とは耳の聴こえない人のことで、「デフ・ヴォイス」は直訳すると
「耳の聴こえない人の声」ということになります。

ろう者の人は聞こえない人として少数の立場にはあるけれど、その声をきちんと
拾っていかないといけない。そんな社会にしていかなければならないと思いました。
ちなみにミステリーなのでその要素も展開が気になりつつ読めて楽しめました。

NO
IMAGE

『「コーダ」のぼくが見る世界 ～ 』を見かけたのと同じ時期に

『音のない理髪店』 一色さゆり 講談社という本も目に入ってきました。

日本で最初のろう理容師である祖父を持つ作者が、その祖父の半生を描くことで
自らも前に進んでいく、というお話です。

この本では当事者であるろう者の考えや社会から受けてきた出来事が描かれて
いて、悲しい気持ちになることもあったけれど、確実に日本や世界が変わって
いっていることを認識できました。

NO
IMAGE

『「コーダ」のぼくが見る世界 ～ 』では他にも映画や書籍が紹介されていました。

『Coda コーダあいのうた』 監督・脚本シアン・ヘダー
作中でろう者である両親が娘の歌の発表を聴きに行く
シーンがあります。そのシーンではろう者の立場になれる
演出があってコミカルな部分もあるのですが無になる場面
があります。何とも言えない気持ちになりました。

キャスティングに実際のろう者の人を起用しているため
かすごく感情表現が激しいところも見どころです。

『聲の形』 大今良時 講談社

ろう者への偏見だけ
ではなく、いじめの
被害者と加害者という
立場を超えて人とつな
がっていくことを教えて
くれる作品です。

NO
IMAGE